

令和3年京都大学教室系技術職員スキルアップ研修報告書

1. はじめに

教室系技術職員に対して、職務に必要な能力・知識を習得させ、率先して業務に取り組む姿勢を養い、自覚と資質の向上を図ることを目的として、「はじめてのデータ分析研修～データを読み解く力を習得する」「ハラスメント防止研修」「怒りのマネジメント研修」および「コミュニケーション力向上研修」の4つのスキルアップ研修を企画した。

2. 日程および対象者等

(1) はじめてのデータ分析研修～データを読み解く力を習得する

①令和3年12月17日(金)

②令和4年2月21日(月)

③令和4年3月11日(金)

各日10:00~15:00(昼休憩1時間)

※①②③は同内容

対象者

統計学の基礎知識を学びたい者、適切なデータの読み方をあらためて学びたい者。

プログラム

- ・データを読み解くルールを理解する
 - ・平均と標準偏差の読み方を学ぶ
 - ・相関関数の読み方を学ぶ 等
- (株式会社インソース実施)

(2) ハラスメント防止研修

①令和4年1月14日(金)

②令和4年1月28日(金)

各日10:00~15:00(昼休憩1時間)

※①②は同内容

対象者

職場において同僚や学生との円滑な関係性を構築する上で、当該研修スキルを真に必要とする者。特にハラスメントについて学びたい者。

プログラム

- ・ハラスメントとは
 - ・パワーハラスメント
 - ・部下指導における適切な叱り方
- (株式会社インソース実施)

(3) 怒りのマネジメント研修

①令和4年2月4日(金)

②令和4年2月18日(金)

各日10:00~15:00(昼休憩1時間)

※①②は同内容

対象者

職場において同僚や学生との円滑な関係性を構築する上で、当該研修スキルを真に必要とする者。
特に怒りのマネジメントについて学びたい者。

プログラム

- ・怒りについての考え方
 - ・自分の怒りのサインに気づく
 - ・怒りのセルフコントロール 等
- (株式会社インソース実施)

(4) コミュニケーション力向上研修

①令和4年2月25日(金)

②令和4年3月4日(金)

各日 10:00~15:00 (昼休憩1時間)

※①②は同内容

対象者

職場において同僚や学生との円滑な関係性を構築する上で、当該研修スキルを真に必要とする者。
特にコミュニケーションについて学びたい者。

プログラム

- ・コミュニケーションにおける悩み
 - ・上司・先輩の立場で考える
 - ・指示を正確に受け取る
 - ・リアクション力を高める
- (株式会社インソース実施)

3. 参加者名簿

(1) はじめてのデータ分析研修～データを読み解く力を習得する

① 令和3年12月17日(金)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	備考
1	複合原子力科学研究所技術室	飯沼 勇人	第5群	電気	
2	複合原子力科学研究所技術室	阪本 雅昭	第5群	機械	
3	複合原子力科学研究所技術室	三宅 智大	第5群	機械	
4	複合原子力科学研究所技術室	張 儉	第5群	原子力工学	オブザーバー
5	人間・環境学研究科	高橋 輝雄	第2群	機械	
6	薬学研究科	松下 淳	第4群	実験動物	
7	薬学研究科	坪井 ちひろ	第3群	分析化学	

8	薬学研究科	坂田 文恵	第3群	分析化学	
9	理学研究科	田尾 彩乃	第1群	機械工作	
10	農学研究科附属農場	岡本 憲茂	第4群	栽培管理	
11	農学研究科附属牧場	糸山 恵理奈	第4群	家畜管理	
12	農学研究科附属牧場	吉岡 秀貢	第4群	家畜管理	
13	フィールド科学教育研究センター	木本 恵周	第4群	森林管理	
14	フィールド科学教育研究センター	北川 陽一郎	第4群	森林管理	
15	フィールド科学教育研究センター	荒井 亮	第4群	森林管理	
16	霊長類研究所	森本 真弓	第4群	動物飼育	
17	化学研究所	安田 敬子	第4群	分子生物学	オブザーバー
18	化学研究所附属先端ビームナノ科学センター	頓宮 拓	第1群	機械工学	
19					欠席
20	工学研究科	佐藤 佑樹	第1群	機械工作	
21	工学研究科 附属桂インテックセンター	多田 康平	第1群	低温、機械、化学	
22	工学研究科 附属情報センター	奥中 敬浩	第6群	情報技術支援	

② 令和4年2月21日(月)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	備考
1	情報部情報基盤課	下司 和彦	第6群	情報処理	
2	情報部情報基盤課	戸田 庸介	第6群	情報処理	
3	情報部情報基盤課	片桐 統	第6群	情報処理	
4	複合原子力科学研究所技術室	白鳥 篤樹	第5群	機械	
5	複合原子力科学研究所技術室	前本 桂太	第5群	機械	

6					欠席
7	ウイルス・再生医科学研究所 附属再生実験動物施設	出口 央士	第4群	実験動物	
8	ウイルス・再生医科学研究所 附属感染症モデル研究センター	小中 さつき	第4群	生殖工学	
9	農学研究科	吉岡 哲平	第3群	化学	
10					欠席
11	農学研究科附属農場	黒澤 俊	第4群	農学	
12	フィールド科学教育研究センター	山中 公	第4群	森林管理	
13	フィールド科学教育研究センター	橋本 晋太	第4群	森林管理	
14	フィールド科学教育研究センター	西岡 裕平	第4群	森林管理	
15	フィールド科学教育研究センター	吉岡 歩	第4群	森林管理	
16	フィールド科学教育研究センター	柳本 順	第4群	森林管理	
17	霊長類研究所	愛洲 星太郎	第4群	動物飼育	
18	霊長類研究所	夏目 尊好	第4群	動物飼育	
19	医学研究科総務企画課	橋本 直子	第4群	動物飼育	
20	霊長類研究所	兼子 明久	第4群	獣医学	
21	防災研究所技術室	園田 忠臣	第2群	火山観測	
22	防災研究所技術室	中本 幹大	第2群	農学	
23	工学研究科	楠田 育成	第3群	環境工学	
24	工学研究科	植田 義人	第3群	化学、学生実験	
25	工学研究科附属環境安全衛生 センター	大岡 忠紀	第3群	安全衛生	
26	ウイルス・再生医科学研究所 附属感染症モデル研究センター	宮地 均	第4群	生殖工学	オブザーバー

③ 令和4年3月11日(金)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	備考
1	複合原子力科学研究所技術室	小林 徳香	第5群	電気	
2	複合原子力科学研究所技術室	藤原 靖幸	第5群	機械	
3	人間・環境学研究科	酒井 尚子	第3群	化学	
4	人間・環境学研究科	下野 智史	第3群	有機化学	
5	人間・環境学研究科	吉田 あゆみ	第3群	化学	
6	理学研究科 附属地球熱学研究施設	吉川 慎	第2群	電気・電子・情報	
7	理学研究科 附属地球熱学研究施設	井上 寛之	第2群	電気・電子・情報	
8	農学研究科	南部 優子	第3群	化学	
9	農学研究科附属農場	安田 実加	第4群	農学	
10	農学研究科附属農場	西川 浩次	第4群	農学	
11	農学研究科附属牧場	北村 祥子	第4群	家畜管理	
12	フィールド科学教育研究センター	大橋 健太	第4群	森林管理	
13	フィールド科学教育研究センター	宮城 裕太	第4群	森林管理	
14	フィールド科学教育研究センター	奥田 賢	第4群	森林管理	
15					欠席
16	フィールド科学教育研究センター	中村 はる奈	第6群	情報処理	
17	化学研究所	藤橋 明子	第3群	質量分析	
18	防災研究所技術室	小松 信太郎	第2群	機械	
19					欠席
20	防災研究所技術室	加茂 正人	第2群	建築	

21	工学研究科	丸岡 恵理	第3群	化学	
22	工学研究科	玉木 良尚	第1群	機械	
23	工学研究科附属情報センター	浅野 義直	第6群	情報技術	
24	環境安全保健機構	津田 裕美	第3群	化学	
25	ウイルス・再生医科学研究所 附属感染症モデル研究センター	宮地 均	第4群	生殖工学	オブザーバー

(2) ハラスメント防止研修

① 令和4年1月14日(金)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	備考
1	情報部情報基盤課	疋田 淳一	第6群	情報処理	
2	複合原子力科学研究所技術室	栗原 孝太	第5群	医学	
3	複合原子力科学研究所技術室	大野 和臣	第5群	機械制御	
4	複合原子力科学研究所技術室	吉野 秦史	第3群	機械	
5	複合原子力科学研究所技術室	張 俊	第5群	原子力工学	オブザーバー
6	人間・環境学研究科	酒井 尚子	第3群	化学	
7	ウイルス・再生医科学研究所 附属再生実験動物施設	渋谷 翔	第4群	生物	
8	フィールド科学教育研究センター	中川 智之	第4群	森林管理	
9	フィールド科学教育研究センター	橋本 晋太	第4群	森林管理	
10	霊長類研究所	兼子 明久	第4群	獣医学	
11	霊長類研究所	橋本 直子	第4群	動物飼育	
12	化学研究所	藤橋 明子	第3群	質量分析	
13	化学研究所	安田 敬子	第4群	分子生物学	オブザーバー
14					欠席

15	防災研究所技術室	宮町 凜太郎	第2群	地球物理学	
----	----------	--------	-----	-------	--

② 令和4年1月28日(金)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	備考
1	複合原子力科学研究所技術室	藤原 靖幸	第5群	機械	
2	人間・環境学研究科	下野 智史	第3群	有機化学	
3	人間・環境学研究科	吉田 あゆみ	第3群	化学	
4	ウイルス・再生医科学研究所 附属再生実験動物施設	俣野 真帆	第4群	生物	
5	農学研究科	吉岡 哲平	第3群	化学	
6	農学研究科附属農場	西川 浩次	第4群	栽培管理	
7	農学研究科附属農場	安田 実加	第4群	農学	
8	農学研究科附属農場	小西 剛	第4群	栽培管理	
9	生態学研究センター	合田 幸子	第4群	生態学	
10	フィールド科学教育研究センター	勝山 智憲	第4群	森林管理	
11	フィールド科学教育研究センター	宮城 祐太	第4群	森林管理	
12	フィールド科学教育研究センター	奥田 賢	第4群	森林管理	
13	フィールド科学教育研究センター	柳本 順	第4群	森林管理	
14	霊長類研究所	夏目 尊好	第4群	動物飼育	
15	霊長類研究所	前田 典彦	第4群	動物飼育	
16	工学研究科 附属桂インテックセンター	西崎 修司	第1群	低温・機械	
17	理学研究科	阿部 邦美	第3群		オブザーバー
18	防災研究所技術室	吉川 昌宏	第2群		オブザーバー

(3) 怒りのマネジメント研修

① 令和4年2月4日(金)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	備考
1	情報部情報基盤課	尾形 幸亮	第6群	情報処理	
2	複合原子力科学研究所技術室	牧 大介	第5群	放射線計測	
3	複合原子力科学研究所技術室	山田 辰矢	第5群	電気電子	
4	複合原子力科学研究所技術室	竹下 智義	第5群	情報処理	
5	複合原子力科学研究所技術室	吉永 尚生	第5群	化学	
6	複合原子力科学研究所技術室	張 俊	第5群	原子力工学	オブザーバー
7	ウイルス・再生医科学研究所 附属再生実験動物施設	渋谷 翔	第4群	生物	
8	ウイルス・再生医科学研究所 附属感染症モデル研究センター	小中 さつき	第4群	生殖工学	
9	農学研究科附属農場	安田 実加	第4群	農学	
10	フィールド科学教育研究センター	山本 恒紀	第1群	船舶・情報	
11	フィールド科学教育研究センター	勝山 智憲	第4群	森林管理	
12	フィールド科学教育研究センター	宮城 祐太	第4群	森林管理	
13	フィールド科学教育研究センター	柳本 順	第4群	森林管理	
14	霊長類研究所	橋本 直子	第4群	動物飼育	
15	霊長類研究所	愛洲 星太郎	第4群	動物飼育	
16	霊長類研究所	夏目 尊好	第4群	動物飼育	
17	化学研究所	藤橋 明子	第3群	質量分析	
18	化学研究所	安田 敬子	第4群	分子生物学	オブザーバー
19	防災研究所技術室	富阪 和秀	第2群	機械	
20	防災研究所技術室	小松 信太郎	第2群	機械	

21	ウイルス・再生医科学研究所 附属感染症モデル研究センター	宮地 均	第4群	生殖工学	オブザーバー
----	---------------------------------	------	-----	------	--------

② 令和4年2月18日(金)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	備考
1	複合原子力科学研究所技術室	田中 良明	第5群	機械	
2	複合原子力科学研究所技術室	平井 康博	第6群	情報	
3	複合原子力科学研究所技術室	長谷川 圭	第5群	電気電子	
4	複合原子力科学研究所技術室	荻野 晋也	第5群	機械	
5	複合原子力科学研究所技術室	阿部 尚也	第5群	化学	
6	人間・環境学研究科	下野 智史	第3群	有機化学	
7	ウイルス・再生医科学研究所 附属再生実験動物施設	俣野 真帆	第4群	生物	
8	理学研究科	道下 人支	第1群	機械工作	
9	理学研究科	高谷 真樹	第3群	地質学	
10	理学研究科 附属地球熱学研究施設	井上 寛之	第2群	電気・電子・情報	
11	理学研究科 附属地球熱学研究施設	三島 壮智	第3群	分析化学	
12	理学研究科 附属地球熱学研究施設	吉川 慎	第2群	観測地球物理学	
13	農学研究科	吉岡 哲平	第3群	化学	
14	農学研究科附属農場	西川 浩次	第4群	栽培管理	
15	農学研究科附属農場	小西 剛	第4群	栽培管理	
16	フィールド科学教育研究センター	奥田 賢	第4群	森林管理	
17	防災研究所技術室	園田 忠臣	第2群	火山観測	
18	防災研究所技術室	宮町 凜太郎	第2群	地球物理学	
19	工学研究科	中池 由美	第3群	化学	

20	工学研究科 附属桂インテックセンター	西崎 修司	第1群	機械	
21	複合原子力科学研究所技術室	張 儉	第5群	原子力工学	オブザーバー
22	理学研究科	阿部 邦美	第3群		オブザーバー
23	工学研究科	内藤 正裕	第5群		オブザーバー

(4) コミュニケーション力向上研修

① 令和4年2月25日(金)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	備考
1	複合原子力科学研究所技術室	前本 桂太	第5群	機械	
2	複合原子力科学研究所技術室	富永 悠太	第5群	情報	
3	複合原子力科学研究所技術室	井本 明花	第5群	電気・機械	
4	医学研究科附属動物実験施設	中西 聡	第4群	生物	
5	ウイルス・再生医科学研究所 附属再生実験動物施設	俣野 真帆	第4群	動物飼育	
6	フィールド科学教育研究センター	山内 洋紀	第4群	生物	
7	フィールド科学教育研究センター	山本 恒紀	第1群	船舶・情報	
8	霊長類研究所	夏目 尊好	第4群	動物飼育	
9	霊長類研究所	橋本 直子	第4群	動物飼育	
10	防災研究所技術室	竹中 悠亮	第2群	火山観測	
11	工学研究科 附属桂インテックセンター	西崎 修司	第1群	機械	
12	情報部情報基盤課	石橋 由子	第6群	情報処理	オブザーバー
13	工学研究科	内藤 正裕	第5群		オブザーバー
14	複合原子力科学研究所技術室	張 儉	第5群	原子力工学	オブザーバー

② 令和4年3月4日(金)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	備考
1	複合原子力科学研究所技術室	竹下 智義	第5群	情報処理	
2	複合原子力科学研究所技術室	白鳥 篤樹	第5群	機械	
					欠席
4	複合原子力科学研究所技術室	山田 辰矢	第5群	電気電子	
5	複合原子力科学研究所技術室	張 儉	第5群	原子力工学	オブザーバー
6	ウイルス・再生医科学研究所 附属再生実験動物施設	渋谷 翔	第4群	生物	
7	理学研究科附属地球熱学研究施設	三島 壮智	第3群	分析化学	
8	フィールド科学教育研究センター	橋本 晋太	第4群	森林管理	
9	フィールド科学教育研究センター	宮城 祐太	第4群	森林管理	
10	防災研究所技術室	宮町 凜太郎	第2群	化学	
11	工学研究科	丸岡 恵理	第3群	低音・機械	
12	ウイルス・再生医科学研究所 附属感染症モデル研究センター	宮地 均	第4群	生殖工学	オブザーバー

4. はじめてのデータ分析研修～データを読み解く力を習得する

今回実施した「はじめてのデータ分析研修」は、対象者が統計学の基礎知識を学びたい人や適切なデータの読み方をあらためて学びたい人向けであった。その為、簡単な内容だと感じた人もいたようだが、「非常に参考になった」、あるいは「業務に活かしたい」という声がアンケートで確認できた。オンラインであったため、それぞれのPCを操作してエクセルで実践を行くことには不向きであったが、今回の研修を入口にしてエクセルを統計処理に利用したり、もっと高度な統計学や、過去に学習した統計を思い出して日頃の業務に生かしたりしていくきっかけとなる研修であった。講師の方からも「全員とは言えないが、更に次のステップの研修が必要でないか」との報告があった。今後の研修立案の参考にしたい。

5. ハラスメント防止研修

ハラスメントとは何かという基本的な知識から、どのようにハラスメントを防止していくかなど、すぐに実践できることや、今後気を付けていくべき事など具体例が多く、それを短時間で上手にご紹介いただき参考になる事が多い研修であった。またアサーティブやIメッセージなどについても解説していただいたが、それは別途研修として行いたい様な内容であった。

6. 怒りのマネジメント研修

「怒り」を総合的に学び、自分が何に対して「怒る」のか、そのコントロール方法など、気づきや対応を具体的に学ぶ研修でした。怒りは感情なのでそれをコントロールするのではなく、外に出す際にどうするか＝アンガーコントロールを学ぶ事は大きな意味がある。グループワークも多く行われ、他人の意見を聞き、違った視点から物事を考える事で「怒り」に対して深く学ぶ機会となった。今回も「ハラスメント防止研修」と同様にアサーティブやIメッセージの話が盛り込まれていた。アサーティブコミュニケーションの研修は何年か前にも実施したが、受講できていない人も多いので実施を検討したい研修である。

7. コミュニケーション力向上研修

業務におけるコミュニケーションについて具体例をあげてわかりやすく解説いただいた。中間管理職の技術職員を対象とした研修であったが、部下がいない人も自分の事に置き換えて研修がスムーズに行われていた。コミュニケーションの基本となる「ほう・れん・そう」がしやすい雰囲気作りや中間報告の活用、「ほう・れん・そう」を通じての後輩育成など、内容は非常に豊富であった。

8. 総括

技術職員の研修は自らの業務を発表する事が多かったが、コロナ禍もあり、オンラインでヒューマンスキルを磨く研修をここ2年ほど多く行ってきた。これは平成29年度以降に採用された技術職員は事務職員と同等なヒューマンスキル系の研修が受けられているが、それ以前に採用された人にはその機会がきちんと提供できていないためそれを補完する意味がある。今年度に企画したこれらの研修を受けることで、いま自分に何が必要なのか、つぎは何をすべきかをそれぞれが把握していただく機会を提供できた。今年度はオンラインという事もあり、終日の研修よりも朝と夕方に業務時間を確保できる時間設定で実施した。その狙いは成功しており、参加者のアンケート結果からも参加しやすかったという声が多く聞かれた。また、遠隔地で働く人を考慮するとオンラインの方が格段に参加しやすいという意見が多く見られた。オンラインのメリット、デメリットそれぞれあるが、研修の開催にあたり、遠隔地の人が不利にならない配慮を常に行なっていきたい。また発表中心の総合技術研修を含め、自ら手を上げて参加する研修ばかりだったが、業務が忙しすぎて研修を受ける時間を作れないなど、本当に研修が必要な人が研修を受けられる、あるいは研修を避けている人に強制的に研修を受けさせる事を検討する必要があると感じています。

以上